

衛星データを活用して、社会問題の解決にトライ！

📅 2023年10月22日 九州版

カテゴリー：その他教育活動



糸島高等学校

福岡県立糸島高等学校（糸島市前原南・荒木礼子校長）の生徒が9月30日（土）に、衛星データを活用してさまざまな社会問題を解決する新しいプロジェクトのプレゼンテーションを行った。会場は福岡市東区にあるアイランド アイにて、福岡県の文化や特産品などいろいろな魅力を発見する場である「ふくおかミナクルフェスタ（FUKUOKAコンファレンス2023）」において実施した。

同校の2年生、3グループが総合的な探究の時間を使って、社会問題の解決に向けて活動してきた成果を新プロジェクトとして福岡の諸企業に向けて提案した。

衛星データとは、人工衛星から収集された情報のことで、撮影された画像やデータは、気象観測や災害対策などに利用されるほか、農業や漁業対策さらには都市計画などにも活用されている。

グループごとの発表時間は約15分ごとで、発表後は登壇者とのディスカッションも行われた。また生徒たちの発表を受けて、登壇者（日本青年会議所 大石祐介氏、糸島高校教諭 佐々木修一郎氏、福岡県商工部新産業振興課 大橋隼人氏）は産学官の立場から生徒たち若い世代に福岡の未来の展望についての話をした。発表されたテーマは以下の通り。

- ・ 高校生が考えた少し先の未来のキッチン…衛星データを活用したIoTキッチン対応アプリケーションを提案。
- ・ 高校生が考えた少し未来の空調システム…衛星データを活用した空調管理AIシステムの提案。
- ・ 高校生が考えた少し未来の農業…衛星データを活用して生産量を管理したフードロス問題の解決方法の提案。





